

令和7年度  
第1回 ふるさと常陸太田の歴史散歩

令和7年9月28日（日）

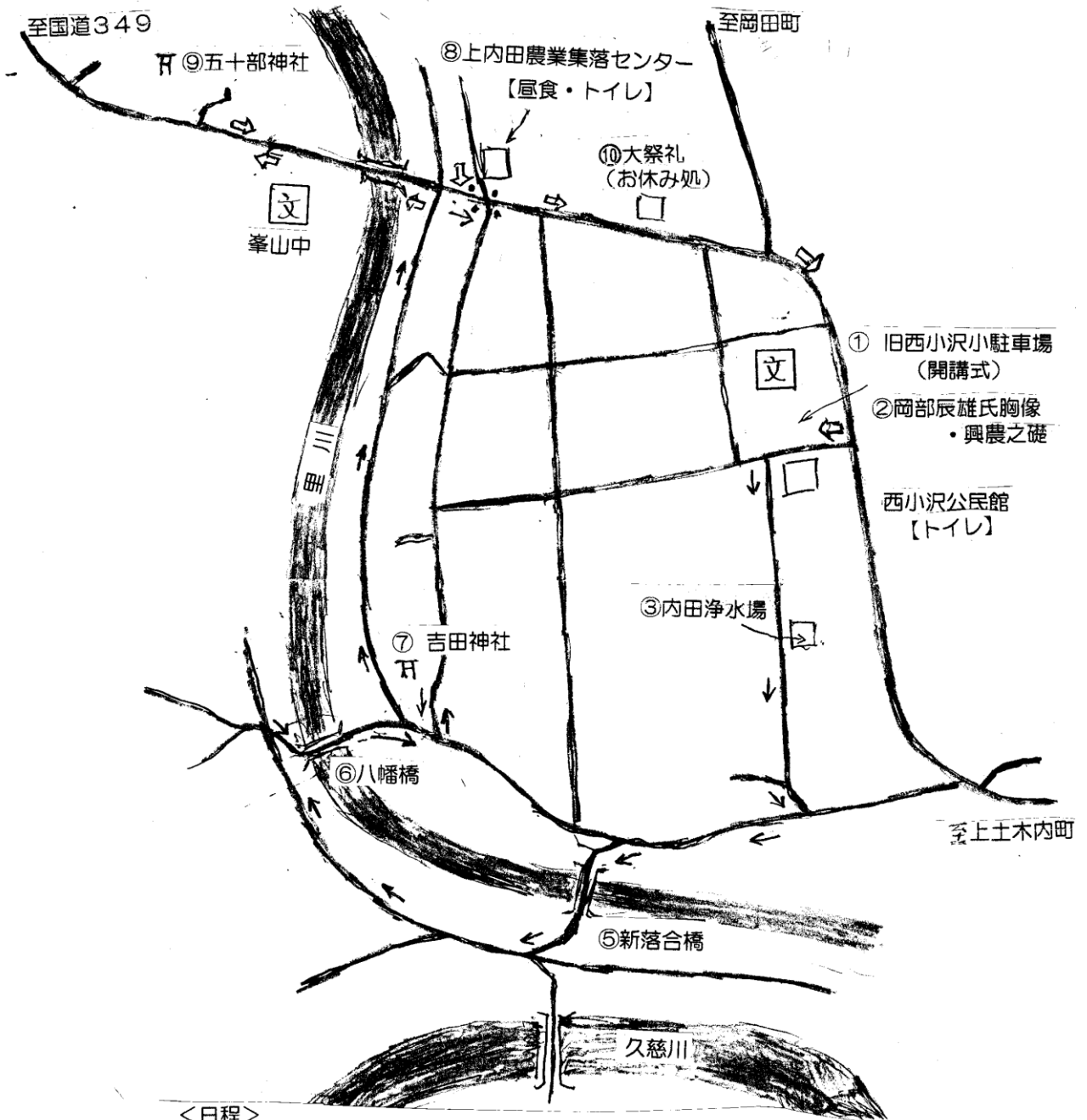
～ 内田・落合の里めぐり ～



新落合橋での撮影風景

常陸太田まちかど案内人の会

令和7年度 第1回 ふるさと常陸太田の歴史散歩散策コース  
～ 内田・落合の里めぐり ～



<日程>

- ① 旧西小沢小駐車場 → ② 岡部辰雄氏胸像・興農之礎 → ③ 内田浄水場 →  
9:30 9:50 10:00
- ④ 久慈川工業用水道第1ポンプ場【遠景】 → ⑤ 新落合橋 → ⑥ 八幡橋 →  
10:10 10:30 10:50
- ⑦ 吉田神社 → ⑧ 上内田農業集落センター【昼食・トイレ】  
11:05 11:40着 12:30発
- ⇒ ⑨ 五十部神社 ⇒ ⑩ 大祭礼（お休み処） ⇒ ⑪ 旧西小沢小駐車場（解散）  
13:00 14:00 14:20

## 第1回 ふるさと常陸太田の歴史散歩

### ～ 内田・落合の里めぐり ～

#### 目 次

1. 旧西小沢小学校の沿革	・・・・・・・・	4
2. 岡部辰雄氏胸像・「興農之礎」の碑	・・	5
3. 内田浄水場	・・・・・・・・	6、7
4. 新落合橋	・・・・・・・・	8
5. 八幡橋	・・・・・・・・	8
6. 吉田神社	・・・・・・・・	9
7. 五十部神社	・・・・・・・・	10
8. 大祭礼（お休み処）	・・・・・・・・	11、12

## 1. 旧西小沢小学校の沿革



明治	6年	8月	日進舎として開校
	17年	11月	第4学区組合中等内田小学校
	19年	12月	幡尋常小学校内田分校
	22年	7月	西小沢村成立 西小沢尋常小学校となる
	34年	4月	西小沢尋常高等小学校となる
	45年	7月	小沢に分教場を置く
昭和	5年	6月	分教場を統合、新校舎となる
	16年	4月	西小沢国民学校となる
	22年	4月	西小沢村立西小沢小学校となる
	29年	7月	常陸太田市立西小沢小学校となる
	33年	2月	校歌発表会挙行
	41年	4月	幼稚園が併設
	46年	8月	交通トレーニングコース設置
	48年	3月	水田埋め立て運動場拡張
	55年	3月	屋内運動場完成
	61年	3月	新校舎完成開校式
平成	12年	9月	視聴覚室をパソコン室に改修
	14年	1月	校舎西側に新プール完成
	17年	8月	洋式トイレ設置
	18年	1月	パソコン設置
	24年		各教室パソコン導入
令和	4年	4月	幸久小学校、佐竹小学校、西小沢小学校が統合して、新たに峰山小学校として、通学はスクールバスにより対等合併した。



## 2. 岡部辰雄氏胸像・「興農之礎」の碑

農林大臣保利茂 篆額

茨城県知事友末洋治 撰文並書



小澤郷は 旧水戸藩創業まもない寛永の末年旱魃相次ぎ被害甚大を極めたため 奉行望月五郎左衛門の施策によって永田圓水父子を起用し 茅根田渡堰を設けて灌漑の便をはかった爾来水田を増し河北の穀倉地帯と称された農道狹隘用水亦曲折多くして耕作に不便であった偶々昭和二十六年一月 県下に魁土地改良の議成って直ちに起工実に其の面積三百六十四町歩工費壱千三百六十萬圓所用人員三萬六千人を以って 全二十八年三月村全域に亘って竣工した 更に暗渠排水工事を計画目下実施中であるが 完成の暁には二百四十町歩濕田は二毛作の美田と成りその成果は期して俟つべきものがある 顧うにこの擧は委員長岡部辰雄夙に提唱しところ之が実現には日夜寢食を忘れ 力説に當り村民また卓見と熱誠に共鳴して擧村一致総力をあけた結果 茲に劃期的大事業を見たのである 蓋し縣下に於ける模範地区と稱するも溢美ではない

昭和二十九年九月吉日

### 3. 内田浄水場

所在地：内田町 3590

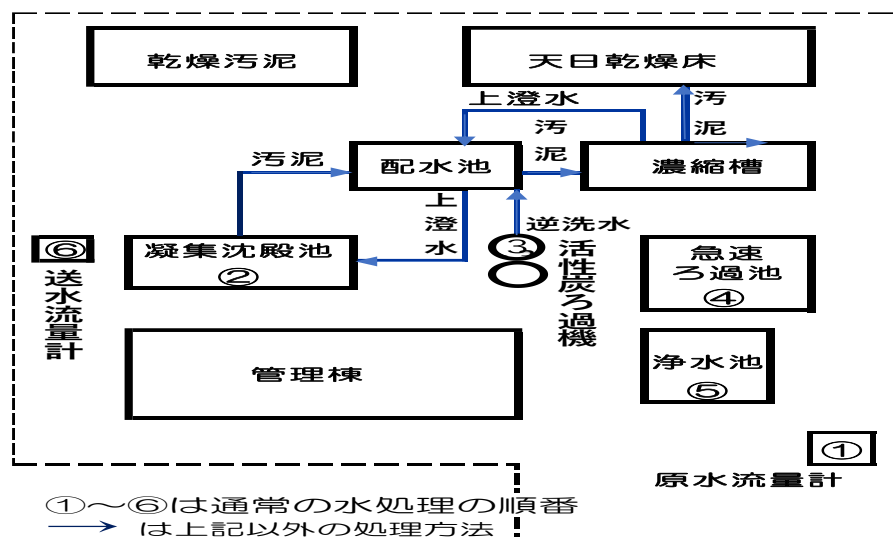


浄水場とは、川や湖、地下水などの水源から取水した水を、水道水として安全に飲めるように浄化（沈殿・ろ過・消毒などの処理）する施設のことである。

内田浄水場は、久慈川に設置された落合取水塔（日立製作所の所有）より取水した表流水を原水として処理している。

なお、処理した水は、まず佐竹配水池の低区配水池で貯留し、太田地区の南部区域に配水している。また、高区配水池は、ポンプによる揚水と瑞竜浄水場の水を一緒に貯留し、金砂郷地区の久米浄水場までの送配水と太田地区の一部に配水している。

#### <内田浄水場の浄水処理工程>



- ・凝集沈殿池で、水中の微細な汚れを大きな塊にして沈殿・除去
- ・活性炭ろ過機で、久慈川の水のカビ臭を除去
- ・急速ろ過池では、砂ろ過で処理し、次亜塩素酸ナトリウムを添加
- ・浄水池から、浄水した水を管理棟内の送水ポンプにより佐竹配水池に送水

## ＜内田浄水場の整備概況＞

事業の概要		施設の概要	
事業年度	H14～25 年度	敷地面積	24,484 m <sup>2</sup>
供用開始	H26 年 9 月	浄水能力	4,500 m <sup>3</sup> /日
事業費	2,289 百万	給水能力	4,490 m <sup>3</sup> /日

## ＜参 考＞

## 常陸太田市の水道について

○常陸太田市の水道水の給水規模は、市町村合併前は、

- ・常陸太田地区は、給水人口 45,000 人、最大給水量 22,400 m<sup>3</sup>/日
- ・金砂郷地区は、給水人口 12,000 人、最大給水量 5000 m<sup>3</sup>/日

（南部地区及び北部地区の簡易水道事業統合後）

なお、現在は常陸太田・金砂郷地区で給水人口 47,000 人、最大給水量 22,700 m<sup>3</sup>/日

○水府地区には、水府北部簡易水道事業と水府南部簡易水道事業があったが、水府北部簡易水道事業は里美南部簡易水道事業と統合（令和 7 年 4 月）し、里美南部簡易水道事業より暫定送水。（令和 12 年に水府北部浄水場は廃止予定）

水府南部簡易水道事業は、竜神ダムの水利権を取得し、和田簡易水道事業と棚谷簡易水道事業の統廃合を行い、計画給水人口 4,720 人、最大給水量 1,200 m<sup>3</sup>/日。

○里美地区は、次の 4 つの簡易水道で運営

名称	給水人口（人）	最大給水量（m <sup>3</sup> /日）
里美里川簡易水道事業	260	41
里美北部 //	1,680	610
里美中部 //	340	136
里美南部 //	2,250	1,550

「常陸太田市 上水道課」

## 4. 新落合橋

新落合橋は、年代ものの木製橋で映画やドラマのロケ地として知られている。

橋脚は 10 個ほどあり、支柱も細く華奢。趣や雰囲気は深い。傍らには小船もつけてある。

川の流れは緩やかで、普段はしっくりと落ち着いた雰囲気の橋である。日立方面を望むと遠景に山々が見える。（2t 車までが通行可能）



### ＜新落合橋で行われた撮影＞

年度	作 品 名	ジャンル	出 演 者
H21	ゲゲゲの女房	ドラマ	松下奈緒・向井理 ほか
H24	小さな故意の物語	ドラマ	三浦春馬・波瑠 ほか
H24	負けて、勝つ	ドラマ	渡辺 謙・松雪泰子 ほか
H25	一休さん2	ドラマ	鈴木福・成宮寛貴 ほか
H30	いだてん	ドラマ	中村勘九郎・阿部サダヲほか
R5	光る君へ	ドラマ	吉田由里子 ほか
R5	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら	映画	福原遥・水上恒司 ほか

## 5. 八幡橋

八幡橋は、里川に多くかかる地獄橋のひとつで、いくつかの映画やドラマの撮影が行われている。

川の流れは緩やかだが、増水の折には橋が埋もれる。周囲は葦原が広がる田園地帯であり、下河合側から眺めると遠景に山々を望める。

橋脚は 5 つで支柱は太めで橋幅は狭いが、地元民の抜け道となっているため、車の交通量が多い。（2t 車までが通行可能）



### ＜八幡橋で行われた撮影＞

年度	作 品 名	ジャンル	出 演 者
H16	ラストプレゼント	ドラマ	天海祐希・福田麻由子 ほか
H18	フラガール	映画	蒼井優・松雪泰子 ほか
H23	梅ちゃん先生	朝ドラ	堀北真希・高橋克実 ほか
H29	西郷どん	大河ドラマ	鈴木亮平・黒木華 ほか



## 6. 吉田神社



【鎮座地】常陸太田市内田町 2500

【祭 神】日本武尊

【祭 事】

元旦祭 1 月 1 日、節分祭 1 月 3 日、祈年祭 3 月 23 日、春季例祭 4 月 8 日、秋季例祭旧暦 9 月 19 日、新嘗祭 12 月 20 日

【境内社】

素鷲神社、愛宕神社、荒神社、稲荷神社、巖島神社、雷神社、天神社、八幡神社、金刀比羅神社、鷲森神社

【由緒沿革】

古より内田・落合・沢目町内は夙に敬神の念篤く、家内安全・五穀豊穡・災難防除等の守護神として八幡宮を創立、毎年例祭を斉行いたせしが、元禄 8 年(1695)水戸吉田神社(第三宮)を分祠奉斉し、八幡宮を改め吉田神社と改称、明治 6 年 4 月 1 日村社に列格、昭和 27 年 9 月 11 日宗教法人設立、昭和 43 年社殿修築、昭和 53 年裏参道整備、昭和 59 年境内社殿内整備。現在の建物は東日本大震災復旧復興事業として平成 23 年 12 月に新築完了したもの。

石碑文「敬神」海後宗文謹書

<参 考>

本社は、水戸市宮内町にある吉田神社。『常陽式内鎮座本紀』『常陸二十八社考』によると、日本武尊が東征の際にこの地(朝日山/三角山)で兵を休ませたといい、これに因んで社殿が造営されたのが創建であるという。創祀年代は不詳であるが、吉田神社所蔵の古文書によれば、正安 4 年(1301)に鎮座以来 800 余年を経過した旨の記載が見える。1985 年 10 月 19 日~20 日開催の秋季例大祭は創建 1500 年祭として実施した。兵の休憩場所とされる朝日山、三角山の地は、現在も境内一角に伝えられている。

## 7. 五十部神社（熊野鹿嶋神社）



神社の由緒沿革は、口碑に昔二十五人の一集団が村内箕山（みやま）・腰巻に来住、二集団五十人で当社を創建したので五十部神社と尊称した。将軍秀忠公社領六石を供し、徳川光圀公元禄六(1693)年、御祭神一社に相殿と定められた。その時社地二反四畝七歩を奉納せられる。

現在、茨城県神社庁の五十部神社の登録は、熊野鹿嶋神社である。創建は不詳。古くは五十部神社といった。将軍徳川秀忠公(在職 1605 - 23 年)から社領6石。また、水戸藩主徳川光圀公によって、鹿嶋の大神を相殿に奉斎して、熊野鹿嶋神社と社名を改め、社地を奉納したという。

御神体は幣(ぬさ)である。御祭神は伊弉諾尊(イザナギノミコト)・武甕槌命(タケミカヅチノミコト)。昔、磯部に集団で来住した者たちが、来住地の小字箕山（みやま）・腰巻から各25人ずつ集まって創建したことから五十部神社と名付けられたという。旧村社。

磯部の地は、古くから峯山・磯部古墳群があり、なかでも峯（峰）遺跡は縄文時代の遺跡である。『水府志料』によると「五十騎（いそめ）」、「箕山（みやま）」と称していたという。また、磯部の名は、鎌倉時代の『弘安田文』に「磯部十六丁三段大」と書かれたものが初見になる。

常陸国佐都西郡（里川を境として、東が佐都東郡に、西が佐都西郡になる。）にあり、平安時代末期は佐竹氏本貫、鎌倉時代末期は臨川寺の庄園である。臨川寺は、京都市右京区の臨濟宗大本山天龍寺の別院で、開山は夢窓疎石、墓もある。因みに、常陸国佐都庄の他、東岡田郷・西岡田郷も臨川寺の庄園であった。

磯部の地は、佐竹の乱の折に、小野崎氏や江戸氏に押領された。また、文禄三(1594)年の太閤検地で佐都西郡が久慈郡に組み入れられた際は、太閤蔵入領とされた。

『角川日本地名大辞典』 1983

## 8. 大祭礼（お休み処）



### 第十七回 東金砂神社磯出大祭礼供奉行列 順路日程表

2002年12月 現在

■ 大行列

▬ 中行列

— 小行列

3/25(火)	水府村 東金砂神社 出社 14:00	旧道入口	清水	山下	塩の沢	中染祭場 着 18:00
3/26(水)	中染祭場 祭典・田楽 8:00	発 10:00 町田	松草	和田祭場 祭典・田楽 14:00	常陸太田市 下門	馬場八幡宮 祭場 着 20:00
3/27(木)	馬場八幡宮 祭典・田楽 8:00	発 10:00 常陸太田市消防署	若宮八幡宮	岡田	石名坂	泉川道標 着 20:30
3/28(金)	水木浜祭場 祭典・田楽 8:00	発 10:00 大宮駅	久慈浜	常陸太田市 内田	(※2)	上河合祭場 着 20:00
3/29(土)	上河合祭場 祭典・田楽 8:00	発 10:00	藤田	金砂郷町 大里		久米祭場 着 18:00
3/30(日)	久米祭場 祭典・田楽 8:00	発 10:00	玉造	水府村 水久橋		本丸祭場 着 18:00
3/31(月)	本丸祭場 祭典・田楽 9:00	発 12:00	ふるさとセンター			東金砂神社 帰社 14:15



## <参 考>

天明の時代「天明の飢饉」(1782~87)が起こり奥羽地方で死者 10 万人が出た。更に米価高騰で「天明の打ちこわし」(1787) 騒動が勃発した。また浅間山噴火(1783) が発生し死者 2 千人が出た。『日本史通覧』

また、天明 7 年の大祭礼は、天明 7 年(1787) 3 月 2 日の出発から 6 日の帰社までの工程で

① 中染御休 田楽、② 和田御休 田楽、③ 馬場御休 田楽、④ 岡田御休 田楽、⑤ 石名坂 田楽、⑥ 水木浜御休 神輿前祝詞、⑦ 内田御休 田楽、⑧ 上河合御休 田楽となっており、中染で最初に田楽を行ったあと、和田・馬場・岡田・石名坂、帰りは内田・上河合で計 7 回も田楽を行っている。

## 磯出大祭礼

近江国日吉大権現この金砂山へ遷座するに当たっては海路を通り水木浜へ上陸したのである。したがって浜降りの祭を厳修し塩水行事と称して、水木浜の清い塩水を以て神体を浄め神の心慰め奉り、五穀の豊穰を祈り民心の安定と社会の平和を祈願する祭が大祭礼の目的である。大祭礼は文徳天皇仁寿元年(851)に始まり 73 年目毎に挙行され、昭和 6 年に第 16 回の大祭礼が執行されたのである。(大祭礼の行われた年代略) 大祭礼は末年に行うを永例とする祭で 6 百数十名の大行列を組み行程 70 km



6 泊 7 日の日数をかけて 2 市 3 町村を一巡して御神徳をひろめ恩頼を蒙らしめる大祭である。各地で田楽舞を奉奏するので大田楽とも称されるのである。

『由緒と田楽』 西金砂神社 平成 11 年 7 月 21 日再版

第 17 回 (平成 15 年) 磯出大祭礼大田楽

西金砂神社 3 月 22 日(土)~3 月 28 日(金)

東金砂神社 3 月 25 日(火)~3 月 31 日(月)